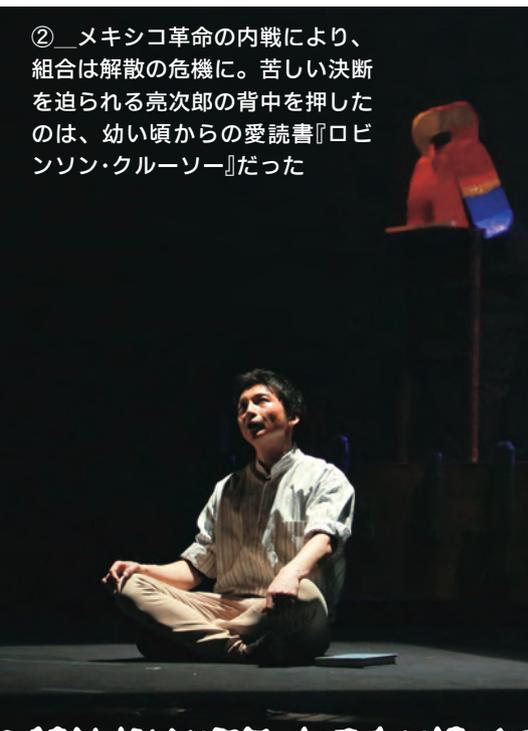


市民が創る 熱い舞台



① メキシコに渡るも、耕作に不向きな土地や言葉の壁に悩まされた殖民団は、1年を待たずに解散する。亮次郎はメキシコに残り、仲間と協力し組合を設立。商売をしながら、メキシコの母国語であるスペイン語と日本語の辞書の編さんを開始。小学校も設立した

② メキシコ革命の内戦により、組合は解散の危機に。苦しい決断を迫られる亮次郎の背中を押したのは、幼い頃からの愛読書『ロビンソン・クルーソー』だった



③ 決心した亮次郎は、仲間たちに組合の解散を告げる。しかし、辞書の編さんや小学校は継続し、後進や仲間のために尽力した



④ 後年、メキシコで幼なじみと再会し、亮次郎はこれまでの困難を語る



⑤ 時代は令和。メキシコに来た日本人旅行者が、亮次郎の偉業を初めて知り驚く



表紙の写真

メキシコ移民の父
照井亮次郎の半生

2月22日・23日の両日、文化会館で第49回花巻市民劇場公演「君たちはメキシコでどう生きるか 照井亮次郎開拓記」が上演されました。東十二丁目出身で、明治時代に殖民団としてメキシコへ渡った照井亮次郎の物語に、来場者から大きな拍手が送られました。

今号の主な内容

- 02 新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議の結果を踏まえた市の考えをお知らせします
- 04 コミュニティバス大迫・花巻線が花巻空港経由に
- 05 大迫・石島谷・東和の予約乗合バスが週5日運行に